

スマイル



第10号 2024. 2. 20 発行
南つつじヶ丘小学校
通級指導教室

3 学期も後半です。



立春が過ぎ、少しずつ暖かさを感じられるようになってきました。2月は「逃げる」とよく言います。あっという間に日々が過ぎて行っているように感じます。「こんなことができるようになった。」「成長したところはどんなところかな。」など、自分で振り返る機会を設け、残りの学年をしっかりとめくってほしいと思います。

様々な感染症が流行していますね。うがい、手洗いをし、しっかり食べて、睡眠をとって、元気に過ごせるよう、体調を整えましょう。



ことばの力 について

よく「9歳の壁」という言葉を耳にします。3, 4 年生から学習する内容が抽象的になり、これまで日常生活の中で使われてきた言葉だけでは理解が難しくなってくるため、このように言われています。低学年のうちから、読書などを通して自然と日常会話の中であまり使われない抽象的な言葉を覚えた子どもと、日常会話で必要なことばしか知らない子どもとの間では、ことばの力の差が大きくなります。

「9歳の壁」、学習が難しくなってくることには、

- ①一つ一つの単語の意味の理解が、狭い範囲に固定されていて、状況に合わせて修正できない。
- ②抽象的なことばの意味を推論するとき手がかりになる、知っている単語の数が少ない。

という2つの理由があります。

学習するときに必要となってくることばの力として、3点挙げられます。

- ①一つのことばと関連することば(似た意味や文の中で一緒に使われることば)が関連づけられている。
- ②言葉の意味に広がりがあり、一つの単語についてさまざまな使い方を知っている。
- ③抽象的なことばの意味を本質まで理解することができる。

学習する上で大切になってくる、ことばの力をできるだけ育てていきたいですね。できることとして、以下のことがあります。

・たくさん対話すること

子どもの発達に適したことばで話しかけることは、ことばに興味を持つ大きなポイントになる。日常の会話でさりげなくことばの不思議さや自分が持つ素朴な疑問などを口に出して、子どもと一緒に考えると、ことばに対する興味がふくらむ。

・ことば同士を比べること

2つのことばの似ているところと違うところを考え、比べることが知識を深めるために大切。似ているところ、違うところを両方意識して比べることで、2つの言葉の概念の理解が深まる。

・本を読むこと

物語だけでなく、図鑑などの読み聞かせでもことばの理解が深まる。子どもが読むのにはちょっと難しい本を大人が読んであげることは抽象的なことばを理解する絶好の機会となる。

言葉の力をつけること、それは思考力にもつながっていきます。ことばの力をつけるために、できることを学校、家庭でがんばっていききたいですね。

引用文献:【親子で育てる ことば力と思考力】
今井むつみ 筑摩書房